

「第2回 自転車*（プラス）活用推進協議会」で出されたご意見の概要と回答、対応方針

No.	ご意見等	事務局及び委員からの回答	計画書該当箇所
1	整備が完了した前野町4丁目の自転車専用通行帯に関して、路上駐車の対策を今後どのように強化していくのか。大型車のドライバーにとっては、自転車レーンを走る自転車の横を走行するのは怖い道幅だったように思う。	自転車*と車が共存できる通行空間の確保のための施策として「違法駐車車両に対する取り締まり等の対策実施」を掲げている。警視庁と連携しながら啓発を行っていくべきところだと思っている。荷さばきスペースはある程度幅員があるところに設ける。矢羽根を設置するところは幅員があまりない。できるところに設置していくが、区道は幅員狭いところがほぼすべてで、駐車車両の空間を設けるとするのは難しいところが多い。	【本編】 p.49
2	ラバーポールを設置したのは、歩行者に対してなのか、ドライバーに対しての注意喚起のためなのか。車体の高い車だと反射板がついていてもラバーポールが見えないこともあるので、ドライバーに意識してもらうためには、自転車レーンもライトが	施工前は駐車車両が常態化してしまっており駐車の抑制という形で設置した。ラバーポール自体に反射板を設置しているだけでなく、ガラスビーズ（反射材料）も含めて施工しておりライトを当てるとキラキラして見えやすくなる。ガイドラインにも視認性を高めるように施工するという記載があり、区としてブルーレーン・矢羽根についても視認性の高いものを使っていく予定でいる。	【本編】 p.147
3	板橋区道第1451号線に島式の二段階の横断施設作っているが、それぞれ片側1車線でそこまで全体の幅員が長くないように思う。ここに設置した理由はなぜか。	ブルーレーンを設置するために一車線化しているが、もともと2車線の路線だったところであり、かなり広い距離を一度に渡らなければならなかった。交通島を設けることで1回にわたる距離が分割しているようなイメージとなる。	【本編】 p.51
4	整備延長計画の自転車道毎年100メートルというのはどこか特定の区間があって100メートルずつだんだん伸ばしていくのか、どのような整備順序となるのか。自転車道整備を計画通り進めるためには具体的な場所などの調整を始めている必要がある。具体的に自転車道整備候補区間の内、どこが矢羽根でどこが専用通行帯でといった区別をつけていく必要がある。	道路補修のタイミングに合わせて施工といったことも踏まえて考えなければいけないところで、具体的には現状決めきれていない。そのため全体に必要な整備量を機械的に割った数字を出しているが、実際はある程度まとまった距離を施工するかについては計画書に示している。志村3丁目の南側・高島平駅の南側の2路線は、現状ある自転車歩行者道の空間再編を行う必要があり整備に対する課題が大きいので、検討を進めていく。	【本編】 p.112～113
5	二車線あった場所を一車線に変更して自転車道整備を行うと、渋滞のリスクがどこまであるのか。	二車線を一車線にして整備をできるところは区内では限られている。整備形態を選定する段階である程度の幅員がある路線を抽出している。今後そのような路線が出てくる場合は交通量、警視庁との安全に関する話を加味して自動車の通行の面も踏まえ、検討していくことになる。 整備路線を最終的に決めるに先立って、車線が最低2車線あるなどの基準で絞り込んでいるので、車線が1車線しかないところに自転車道を無理につくるといった懸念事項は、計画の初めからスクリーニングされている。ただし、車の流れも変わったりする可能性もあるので、動向を見据えながら計画を修正する場面も出てくるかもしれない。	【本編】 p.108～111
6	小学生の自転車交通安全教室が区内の半数程度しか実施していないのは、学校側が実施したくないのか、知らないのか、どちらなのか。	交通安全教室の実施件数として把握しているのは、自転車免許の発行業務を行った学校の件数になる。人工芝で実施ができない、個人情報の関係で免許証はいらない、といった学校に関しては、区を挟まず警察で行うケースもあるので、実際はもっと多くの学校で交通安全教室は実施している。警察で直接受けている学校数に関しては情報を入手していない。	【本編】 p.80

「第2回 自転車*（プラス）活用推進協議会」で出されたご意見の概要と回答、対応方針

No.	ご意見等	事務局及び委員からの回答	計画書該当箇所
11	<p>自転車保険の普及で顕在化される事故が多いのではないかと。本当に自転車事故が増えているのか、もともとあった事故が顕在化したのかを突きさしていき必要がある。生命保険の適用を調べることができれば、今まで自転車保険は適用されなかった。</p>	<p>自転車分担率をふやしたら、事故数も増えるというところをどう評価すればいいのかが難しい課題ではある。単純に数字を見るだけではなくて中身を分解して見る必要がある。実務的に難しい部分もあるかと思うが、安全面と利用促進というのをどうやって両立するかという一つのアイデアとして、このご意見を踏まえて一緒に検討させていただければと思う。</p>	—
12	<p>机上のデータのみとなっているため、PTAなどにアンケートをとり、現場の人の考えることを大事にする必要がある。</p>	<p>令和3年の自転車活用推進計画を策定する際は、計画の配信・イベントとセットで、区役所北館1階のスペースを使い自転車利用に関するアンケートをとった。そのようにどこかの啓発イベントに付随して、広くアンケートをとるような手法もある。</p>	—